



甲状腺の病気と治療について

はじめに

甲状腺は甲状腺ホルモンにより人間の成長や活動のバランスを調節する大切な臓器です。甲状腺ホルモンの分泌量が増えることにより甲状腺機能亢進症や低下症に伴う様々な症状が見られるため、薬物療法や手術などの治療が行われます。また検診目的の超音波検査やCT検査で偶然に甲状腺の腫瘤影が指摘される症例が増えており、当院における診療と甲状腺癌に対する治療について報告させていただきます。

甲状腺の働きと機能異常症について

甲状腺は頸部の中央から下部にかけて存在する20g程度の小さな臓器です。甲状腺は甲状腺ホルモンを適度に産生・分泌することで、私達の身体の成長や活動がバランス良く行われるように調節しています。甲状腺ホルモンの分泌が多すぎたり少なすぎたりすると、甲状腺機能亢進症や低下症という病気になり、それぞれに特徴的な症状が見られます。甲状腺機能亢進症はバセドウ病が代表的な疾患で、甲状腺が腫大するとともに、落ち着きがなくイライラしたり、発汗や動悸、息切れ、指の震え、下痢などの甲状腺中毒症状が見られるようになります。さらに病気が進行すると眼球が突出するような顔つきになる場合があります。一方、橋本病や甲状腺炎などで起こる甲状腺機能低下症では、倦怠感や冷え性、便秘、肥満、うつ状態、認知症の様な症状が見られます。これらの甲状腺疾患は、内分泌内科で甲状腺機能を調節する薬を用いて治療を行います。症状が改善しない場合や薬の副作用が見られる場合には外科手術が行われます。当院では内分泌内科

と甲状腺外科が連携してそれぞれの患者様に最適な治療を提供しています。

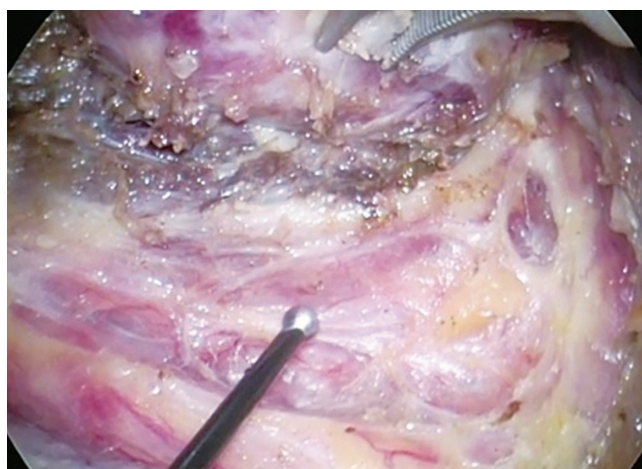
偶然見つかった甲状腺のしこりについて

近年、超音波検査やCT検査でたまたま甲状腺のしこりが見つかる機会が増えてきました。患者様に自覚症状はなく元気なので、どのような場合にどこへ紹介したら良いのかわからないといったご質問をいただくことがよくあります。当院では甲状腺腫瘍の精査目的でご紹介いただきました患者様につきまして、内分泌内科と甲状腺外科の両方で超音波検査を用いた甲状腺の精密検査を行なっています。そして腫瘍の大きさが5mm以上あり、内部が不均一な腫瘍に対しては、良性か悪性かをはっきりさせる目的で、細い針を用いた超音波ガイド下細胞診を行い、1～2週間後に病理診断の結果を説明しています。偶然に甲状腺のしこりが見つかった患者様につきましては、大きさや個数に関係なく、当院へ気軽にご相談、ご紹介いただけますようよろしくお願いいたします。

甲状腺癌に対する手術について

甲状腺癌は女性が男性よりも5倍程度多く見られ、比較的進行が穏やかであることが知られています。そのため早期甲状腺癌の患者様についてはすぐに手術を行わず、定期的に超音波検査やCT検査を行いながら経過観察する場合があります。また当院ではリンパ節転移が見られない早期癌の患者様に対して、腋窩からの小さな傷で手術を行う鏡視下手術を導入し、首に傷を付けずに整容性の高い手術を行っています。首に傷

が付かない手術は女性だけでなく男性患者様からも好評です。術前の超音波検査やCT検査の結果、癌が甲状腺から周囲の筋肉や気管に広がっていたり、甲状腺周囲に腫れたリンパ節が見つかった場合には、首のシワに沿って5cm程の傷から癌を切除する手術を行います。この場合も術後に傷が目立たなくなるように、吸収糸を使って細かく傷を縫合する丁寧な手術を心がけています。甲状腺癌の術後に起こりやすい合併症として、反回神経麻痺に伴う声枯れ（嗄声）が見られる場合があります。当院では手術の際にNIMモニター装置を使って反回神経を同定し、麻痺を起こさないように十分注意しながら手術を行なっています。



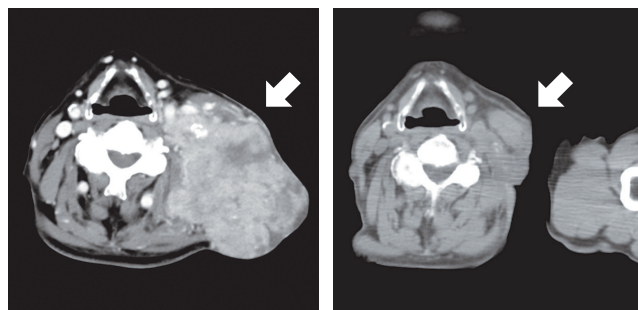
鏡視下乳房温存手術
(NIMモニターによる反回神経確認)



鏡視下甲状腺手術後

進行再発癌に対する分子標的薬治療

甲状腺癌は比較的進行がゆっくりした癌ではありますが、それでも発見が遅れると肺やリンパ節などに転移が見つかる場合があります。また甲状腺癌の一部には未分化癌という、進行が早くて他臓器に転移しやすい癌が見られる場合があります。手術や放射線治療で効果の見られない進行・再発甲状腺癌に対して、ソラフェニブ（ネクサバル[®]）やレンパチニブ（レンビマ[®]）、バンデタニブ（カプレルサ[®]）といった分子標的薬による効果が見られる場合があります。これらの薬剤はいずれも飲み薬で、それぞれに副作用も見られるため、主治医とよく相談しながら治療を行ってください。



甲状腺未分化癌(矢印)
治療開始前

レンビマ内服3ヶ月後

おわりに

甲状腺疾患の診断と治療に関する研究により、新しい手術方法や分子標的治療薬等の開発が進められています。私たちは常に新しい情報と治療を患者様に提供し、甲状腺疾患の早期発見と早期治療に取り組んでいます。

■外来診察日：水曜午後・木曜午前

診療のご予約は・・・

病診連携部門あてに「診察・検査FAX予約申込書」をお送り下さい。

病診連携連絡先

病診連携部門

TEL: 03-3481-7385 FAX: 03-3468-6191



東邦大学
医療センター | 大橋病院
Toho University Ohashi Medical Center

〒153-8515 東京都目黒区大橋2-22-36 電話 03-3468-1251

http://www.ohashi_med.toho-u.ac.jp/
携帯用サイト http://www.ohashi_med.toho-u.ac.jp/m/

